

中学生取材班によるレポートです！

8月8日の夕方、萩の台第二公園で「公園にいこえん」主さいの夏まつりが開きされた。園児や小学生の子たちと、そのお父さん・お母さんたちがする屋台が10店ほどある中、大変大盛り上がりの時間となった。

このまつりは、本来のまつりとは少し違ったものだった。新型コロナウイルスの影響で食べ物の屋台がなく、かき氷のシロップの味に迷う子や、大きな口でえびせんをかじって口にマヨネーズをつけてしまう子もいない。そんなほほえましい光景を見ることができないのは非常に残念だと思う。しかし、食べ物の屋台がない分、工夫をこらして射的屋さんや、ゲームをして手づくりの景品をもらえる屋台があった。



Photo by SAKU

もちろん、こうれいの「金魚すくい」や「ヨーヨーつり」などもある。「スーパーボールすくい」のチャンピオンになって友達に得意気に自まんする男の子もいた。

くじびきの屋台を出していた3年生の女の子は、「いっぱいお客さんが来てくれてうれしい！」と喜んでいた。

家でネイルサロンをしているという、4才のおすこさんをもつお母さんは、手づくりのヘアピンやアクセサリーなどを売っていた。とても上手に作っていて、子供たちの目もキラキラ輝いていた。このお母さんは、発達障害をもっているおすこさんにたくさんの人と交流してほしいと屋台を出したそうだ。



Photo by SAKU

また、いこえんによく来るという5年生の女の子は、「ストライクアウト」と「ヨーヨーつり」を出店していた。最初は緊張したが、やっていたら楽しくなってきたそうだ。「来てよかった」と笑顔で店番をしていた。



このまつりには、朝どれ野菜を売るまつりの目玉のひとつ、ファーマーズマーケットも来ていた。トマトやナスなどの夏野菜があったが、中でもよく売れたのがキュウリ、ブドウなどらしい。野菜を育てるときに一番大変なのは天候。めまぐるしく変わる天気を生き抜いたピカピカの野菜たちは、きっと甘くておいしいだろう。



まつりのお客さんや出店者の方から多く聞かれたのは、「コロナの中でも人が集まって楽しめてよかった」という声だ。自由な行動が制限されて息苦しい生活の中でも、感染対策をキッチリしながら明るい地域にできたらいいな、そう感じるコロナ禍の夏まつりだった。

いこえん中学生取材班

文章：なのはな

写真：さく

(紙面左側)



次回のいこえん

9/12日

am10:00頃～11:30頃
場所：萩の台第2公園

発行：生駒プレイスメイキング（真下 藍）

お問い合わせ：

koen.ikoen.koen.ikoen@gmail.com

